



『E さんに捧げる』～わかる。わかるけど、あかん～

…「スマホ時代に対応する生徒指導・教育相談 -スマホやネットが苦手でも迷わない!-」竹内和雄著(ほんの森出版)から

教師になって 10 年、私(竹内和雄)は教師を続けていく自信をなくしていました。ある程度授業ができるようになり、部活動でも少し勝てるようになりました。やる気のある生徒を伸ばすことには自信を持てるようになりましたが、全くやる気のない生徒、例えば不登校の生徒や問題行動を繰り返す生徒の指導が苦手でした。クラスもなかなか落ち着きません。

自分に担任される生徒たちがかわいそうな気持ちになりました。「他のクラスなら、S さんはきっと学校復帰できたろうに」「問題行動を繰り返す T 君とはぶつかってばかり」「教師を辞めて別の仕事をした方が社会のためかもしれない」……。そんなことばかり考えていました。

そこで、思い切って 2 年間学校を離れ、大学院に通うことにしました。

「2 年で教師を続けていく自信を持つことができたら、学校に帰ろう。自信が持てなかったら教師を辞めよう」と思い詰めていました。大学院進学に際して「カウンセラーになるには」「税理士になるには」の 2 冊の本を購入したことを覚えています。

2 年間、沢山の本を読み、様々な研修会に参加し、授業は一番前で聞き、教授を質問攻めにしました。また、教師を続けるヒントを探して、思春期の子どもたちのための施設を、日本中訪ね歩きました。少年院、児童自立支援施設、不登校の子どもたちのための全寮制の学校、いわゆる非行少年と呼ばれる子どもたちを集めている私塾……。

そんな私は、ある時児童自立支援施設に住み込んで働かせていただいたことがあります。そこは、夫婦小舎制で、寮長、寮母と呼ばれる実際の夫婦が、10 人くらいの寮生たちと小さな寮で生活を共にする施設でした。寮に生活している子どもの多くは、非行や不良行為を繰り返した子どもたちですが、少年院と違って塀が無いので、逃げようと思えば簡単に逃げられます。

私が住み込ませていただいたのは女子寮でした。寮生たちは礼儀正しく元気いっぱい、居心地のいい寮でした。40 代の寮長は寡黙な方でしたが、不思議なくらい寮生たちに慕われていました。

ある日、裕子さん(仮名)の姿が見当たりません。寮を無断で抜け出したのでした。学校、家庭に連絡を取り、手分けして探したところ、3 日ほどして自宅近くのゲームセンターで補導されました。

裕子さんの指導をするというので、指導の口出しをしない約束で、同席させてもらいました。寮長は、連れ戻されてきた裕子さんの前にドンと座り、しばらくの沈黙のあと「なんで無外(ムガイ…無断外出)したんや? 話しなさい」と言いました。

裕子さんは一切話しません。反抗的な目でブスツとしています。無言の時間が続きます。私はどうしたらいいのか、そわそわしていました。普段は明るい裕子さんなので、私が話すきっかけを作るべきかと考えていました。このままじゃ時間の無駄だ、どうしよう……。

沈黙が 20 分近く続いたでしょうか。寮長はもう一度「何で無外したんや? 話しなさい」裕子さんはやっと話しました。「友達に会いたかった……」

寮長は「会いたかったんか。で?」。その後も長い沈黙が続きます。私は裕子さんがかわいそうで、助け舟を出したくてしょうがなかったのですが、寮長と「何があっても口出ししない」という約束をしていたので我慢しました。長い沈黙のあとで裕子さんは話しました。

「寮での生活が厳しくつらい……」

寮長は「つらいか。で?」

裕子さんは自分の思いをポツポツと話しました。タバコが吸いたくてしょうがないこと、彼氏が浮気していないか心配なこと、カラオケで発散したこと……。

寮長は「うん、うん」と相槌を打ちながら聞いています。しばらくすると、裕子さんの言葉が途切れます。寮長は何も話しません。裕子さんが、ちらっと寮長の顔を見たとき、寮長は「で?」と次を促します。再び裕子さんは話し出します。

友達と久しぶりに話してとてもうれしかったこと、タバコを勧められたけど断ったこと、寮長や寮母さんが怒っているかな、と時々思ったこと…。

裕子さんは堰を切ったように話しました。

寮の人間関係がうまくいかないこと、みんな裏で悪口を言い合っていること、自分は U 子ともめていること、U 子がわがままなこと、でも本当は自分も U 子に意地悪ばかりしていること、悪いのは自分だから明日謝るしかない…。

寮の中の人間関係について 2 時間近く話し続け、長い裕子さんの話が終わり、ほっとしたような顔をしました。それでも寮長は「で?」

裕子さんは「これで全部です」

寮長は裕子さんの目をじっと見て、ゆっくりと厳しい声でこう言いました。

「わかる。わかるけど、あかん」

裕子さんは泣き崩れました。「寮長、ごめんなさい」

「裕子、お前が無外したかった気持ちはよくわかった。わかるけど、あかん。俺は許さん。もう二度と無断外泊するな。わかったな」

「うん」

「今日はもう遅いから寝なさい」

裕子さんは寮長をじっと見て「ありがとうございます、寮長」。深々と礼をしました。無断外泊から帰ったばかりだったので厚化粧のままでした。アイシャドーが涙で流れてグシャグシャの顔でしたが、とても晴れやかな顔でした。

そんな裕子さんの顔を見て、私まで涙を流してしまいました。理由はよくわかりませんが、涙が流れました。裕子さんがドアを開けて出ていこうとすると、そこに寮母さんが立っておられて、「よく帰ってきたね」と抱きかかえました。裕子さんは声を上げて泣きました。

そんな裕子さんの姿を見て、私は「もう一度、学校に帰ろう」と強く思いました。

翌日から裕子さんは、何事もなかったかのように、元の元気で明るい裕子さんに戻っていました。残念ながら、裕子さんはその後も何度かトラブルを起こし、もう一度無断外泊もしたそうです。そのたびに少しずつ成長し高校に進学して卒業。今では立派な美容師になっているそうです。

この寮長は、私が武蔵野学院養成所(児童自立支援施設(当時の教護院)の職員になるための養成所)で学んでいた時の同期生Eです。彼は20年以上寮長を務めたあと、自分の娘さんと奥さんとの関係がぎくしゃくしたため、仕事を辞め、少しの間主夫をしていました。その後、娘さんと奥さんとの関係も修復され、児相の嘱託職員として働いていました。同時に学芸員の資格を取るために大学にも通っていました。

我々養成所の同期の仲間は時々同期会を行い、楽しい時間を過ごしていました。2016年7月、彼が幹事となって、祇園祭に合わせて京都で開かれた同期会、36期生15名のほとんどが、秋田や佐賀からも京都に集まりました。彼は趣味の自転車に乗って、大阪の自宅から来て、私たちを京都で迎えてくれました。学芸員の勉強をしている彼は、祇園祭の細かなことまで解説してくれ、大原三千院、伏見稲荷を観光したときなど、我々が車で移動する所に、自転車で先回りするほど元気でした。

彼の異常を知ったのは、翌年の2月です。ある会議で私が大阪に行くため、関西にいる同期生たちと一杯やりたい、ともう一人の大阪在住の同期生Nに連絡を取ったところ、彼が入院している、と。10月に腰の痛みで通院したところ、膵臓がんであることがわかり、入院している、と。7月に大原三千院までの坂道を自転車で車より速く登っていた彼が……。連絡を取り合ったNと一緒に彼のお見舞いに行きました。

「ごめんな、こんなザマで…」と彼はニコニコして我々を病室で迎えてくれました。半年前に会った、陽に焼けて健康的な彼とは別人でした。抗がん剤の影響で髪は抜け、食事ができないためにやせ細り、私より10歳以上年上に見えました。

9月ごろから微熱があり少し腰が痛かったこと、市販の風邪薬を飲んだら一時的に良くなったこと、その後再び腰痛があり通院したところ、すぐに家族を呼ぶように言われたこと、がんの影響で十二指腸あたりが狭くなっているため、胃と腸を繋ぐバイパス手術を先日行ったこと、など、この半年間の様子を話してくれました。こわばった顔で聞いていたであろう私とは対照的に、笑みを浮かべてゆったりと話す彼に圧倒されました。病院を後にして通天閣を見上げながらNと飲んだ酒は旨くなかった。

「健康診断で出た数値が今思えば悪いところがあったんだよなあ」「よく健康診断しといた方がええで」病室で彼から言われた言葉をそのまま彼に返したかった。同期のみんなに、今の状態を知らせてよいか聞いたところ「迷ってたんだよねえ…、知らせてもええでえ」。膵臓がんり患者の5年生存率は9%、ステージ4では1%らしい。彼の膵臓がんはステージ4B、肺にも転移、「時間がありません！」とすぐに同期生全員に状況を知らせました。2月25日、都合のついた6人で彼の病室を再び訪ねました。彼は一回り小さくなっていましたが、相変わらず笑顔で、よく話しました。まるで夏の同期会の続きのようでした。

病室を後にして天王寺駅前で飲んだ酒は、相変わらずまずかった。「Eさんは強いね…」誰もが感じ、みんなが口にしていました。その後、この日に来られなかった同期生が、秋田から、千葉から、栃木から、佐賀から、熊本から大阪を訪れました。2月25日と同じように、それぞれ笑って楽しい時間を過ごしたそうです。

彼からは時々ラインで私に近況が送られてきました。3月12日「今日退院した。やっぱり家は

落ち着く」…奇跡的に快方に向かっているのか…。そして3月31日、大阪のNから電話があります。私が県庁で退職辞令を受け取り、職場に戻ろうとした時です。「11時〇分にEが亡くなった」。くしくもこの時間は、3月27日に那須町で起きた春山登山講習会の雪崩事故で亡くなった大田原高校山岳部の生徒と教員に、退職式内で黙とうを捧げていた時でした。私は誰に祈りを捧げていたのだろう…、不思議な気持ちになりました。

「4月にまた行くからね」という彼との約束は、4月2日に果たすことになります。すぐに同期生全員に葬儀日程を知らせ、都合のついた大阪のNと横浜のTと私の3人で告別式に臨みました。葬儀場には彼の愛用していた自転車や3月15日に娘さんに車いすを押してもらって参列した彼の大学の卒業式での写真、真新しい卒業証書、みんなが貧しかった子ども時代の写真、病室で書き留めていたと思われる彼の思いの詰まった文章、様々な展示品が彼の57年の人生を物語っていました。安らかに眠っている彼の周りに、退園生と思われる若い女性たちが集まり話しかけていました。その中の一人が「先生、迷惑かけてごめんなさい」と泣き崩れていました。私は彼ほどの働きをしていない、なのに私は生きている…、なんて世の中は不公平なんだろう。涙が止まりませんでした。

今回は毎年年度末に思い出す、8年前に亡くなった私の友人について書きました。私と彼が学び、共に過ごした養成所は、「国立武蔵野学院附属教護事業職員養成所」であり、現在は「国立武蔵野学院附属人材育成センター養成部」と名称が変更されています。4年制大学を卒業した28歳未満の者が受験でき、毎年10名から15名が武蔵野学院内の養成棟で寮生活を送りながら1年間講義を受け実習を行うのです。「同じ釜の飯を食った」仲間の結びつきは強く、卒業後40年以上たった今でも私は36期の仲間とは交流があります。この「武蔵野学院養成所」は授業料、寮費が無料、月3万円の食費のみ(私の時代は食費も無料だった)で「児童自立支援専門員」「児童指導員」「児童福祉司」「社会福祉主事」の任用資格がとれます。児童自立支援施設、児童養護施設、児童相談所などへの就職を考えている方がいらしたら、ぜひこの養成所をご紹介します。

国立武蔵野学院附属人材育成センター

〒336-0963 埼玉県さいたま市緑区大字大門 1030

TEL 048-878-1260

HP <http://www.cfa.go.jp/musashino/zennichi-katei/>

第79期生募集

授業料・寮費は無料です
出身学部を問いません

子どもと一緒に。





1年間で以下の4つの資格を取得できます
● 児童自立支援専門員
● 児童福祉司
● 児童指導員
● 社会福祉主事

児童自立支援専門員の
仕事とは…?

非行などの問題を抱える子どもや虐待などの理由により支援が必要な子どもたちと生活を共にしながら信頼関係を築き、社会で自立して生きていく力を育むことを目標に支援していく仕事です。

国立武蔵野学院附属人材育成センター
養成部全日課程
(旧児童自立支援専門員養成所)
Center For Professional Development
Of Child Welfare

お問い合わせ先

〒336-0963 埼玉県さいたま市緑区大字大門 1030番地
TEL 048-878-1260 FAX 048-878-1244
HP <https://www.cfa.go.jp/musashino/zennichi-katei/>
※遠隔課程第4期生も募集

詳細はHPをご覧ください。